「花の日礼拝」があり、ミード保育園の園児たちが綺麗なお花を持って愛ホームに遊びに来てくれました。

最初に、園児たちはご利用者の前で歌を歌ってくれて、ご利用者のみなさんはニコニコしながら可愛らしい歌声に聴き入っておられました。園児たちは、ご利用者にお花を渡すとき、始めは恥ずかしそうにしていましたが、ご利用者のみなさんが「こっちにおいで」と優しく手招きしてくださると、緊張がほどけたのかいつも通りの笑顔に戻って、お一人お一人にお花を手渡してくれました。受け取ったご利用者は、微笑みながら大切そうに両手で包み込んでお花を受け取っておられました。そして、園児たちに「綺麗やねぇ」「ありがとう」と伝えていました。

楽しい時間を過ごすことが出来て、園児もご利用者のみなさんも、マスク越しではありましたが笑顔が輝いていました。

（ミード愛ホーム　　中川　栄次郎）

（ミード愛ホームでの様子）

「花の日礼拝」とは、６月の第２日曜日に行われるもので、キリスト教の行事のひとつです。子どもたちが花を持ち寄って教会を飾り付けて礼拝を行ったり、またその花を持って、日頃お世話になっている方などに感謝の気持ちとともに届けたりするものです。

（社会舘受付での様子）

６月 10 日、子どもたちが持ち寄った花に囲まれて、色々な種類の美しい花を作って下さり、一人ひとりの子どもたちを愛して下さっている神さまに感謝を捧げる礼拝をしました。礼拝後、5 歳児ぞう組の子どもたちは、「デイセンターや愛ホームのご利用者の方々に美しい花を届け、明るく嬉しい気持ちになっていただきたい」、その他にも「お世話になっている方々にお花を届けたい」と、社会舘受付、給食室、神愛教会に行きました。

A 君が愛ホームのご利用者の方に「どうぞ！」と花をプレゼントしようとした時、「まあ、キレイなお花！これはお母さんにプレゼントしてあげなさい。」と、受け取っていただけませんでした。おばあ様に喜んでもらいたいと思っている A 君は、もう一度勇気を振り絞って「おばあちゃん、どうぞ！」と渡すと、今度は笑顔で受け取って頂くことができました。ミードに関わる方々の優しさが伝わってくる、心温まるエピソードでした。今回はお花を届けるだけとなりましたが、新型コロナウイルスが収束したら、ゆっくり遊びに行きたいと思っています。

（ミード保育園　　寅井　敬子）

一般寄付・後援会・ボランティア基金のお願い

皆様から頂戴しましたご寄附は、送迎車両の整備・購入準備金、保育園施設の補助等、大切に使わせていただいております。また、ボランティア基金は、カフェとまり木の運営他、ボランティアの方々のために使わせていただいております。

社会福祉法人キリスト教ミード社会舘

後援会会長　金津　博直
理事長　　岩佐　美奈子
舘　長　　吉岡　健一

寄付金・後援会賛助会員費・申込口座名

会費　年額　　１口　5,000 円（何口でも可）
郵便振込口座　　00900－2－47186
加入者名義　社会福祉法人キリスト教ミード社会舘

（編集制作：前田）

皆様方からのご協力、お待ち申し上げております

ミードだより

No.159
2021 年 7 月 1 日
題字　金津　博直

編集・発行　社会福祉法人 キリスト教ミード社会舘
大阪市淀川区十三元今里一丁目１番５２号
☎（06）6309-7121　FAX (06)6309-7123

「チームワークで繋ぐ」

淀川区オレンジチーム　管理者（保健師）　辻田　奈乙見

私は、昨年 4 月に淀川区東部地域包括支援センターから淀川区オレンジチームへ異動となり、現在は管理者として勤務しています。

淀川区オレンジチームは「認知症初期集中支援推進事業」を行っています。大阪市よりミード社会舘が事業を受託して 5 年目となります。オレンジチームは言わば「認知症に関するなんでも相談の窓口」で、認知症の方が自分らしく在宅生活を継続していけるよう、様々な支援先に繋いでいくことが一つの大きな役割となっています。そうして繋がった関係機関や地域の方々との関係をチームはとても大切にしています。そして、その繋がりができた支援の輪をワンチームとして、それぞれが持っている強みを支援に還元しながら、認知症の方を輪の中心にした支援の手繋ぎを行っています。

オレンジチームは、ミード社会舘が受託している事業を「チーム」が受けて託されていますので、個人ではなくチームワークのもとに全ての関わりがあることを日々の仕事の中で常に意識する必要があると私は考えています。しかしながら、認知症の方やそのご家族と 1 対 1 で関わる場面も多く、個人の考えに偏った関わりを持ってしまったり、個人がケースを抱え込んで適切な支援に結び付けられなかったりする危険性があります。関わりや支援そのものがチームワークであることを忘れてしまっているような場合です。関係機関や地域の方々との繋がりにおいても、個人が良い関係性を築けても、オレンジチーム自体が良い関係性を築けていなければ、認知症の方の適切な支援に繋いでいくことは難しいと思います。チームメンバーが互いの力を合わせて一丸となり、全力でひとつひとつの関わりや支援に対峙することが必要であると思っています。

また、管理者として日々心がけていることは、各チームメンバーの個性と専門性（医療職・介護職・福祉職）を活かして、少人数でも最大限の力が発揮できるようなチームワークを実践していくことです。そのために、毎日欠かさずミーティングを行い、それぞれの支援に対する思いや考え方などの「支援観」を共有する時間を持ち、プロフェッショナルな職業チームとして支援に向えるような体制作りを行っています。各専門職ならではの「支援観」もあれば、世代や生活背景によって考え方や意見の違いがあったりもしますが、互いに論じ合い切磋琢磨できる時間を大切にしています。そうした中で「認知症の方やそのご家族が、認知症と共にその人らしく地域で暮らしていけるにはどうしたらいいのか」を常に話し合い、支援の方向性を定めていくことが支援の第一歩だと捉えています。一人ひとりが使命感とやりがいを持って仕事に取り組めるようにサポートすることも管理者の仕事ですので、なんでもざっくばらんに話し合える環境づくりに努めていきたいと思っています。

創設から 113 年の歴史を持つミード社会舘は、今、淀川区において新たな地域コミュニティ包括ケアの地域福祉の実践を行っています。ミード社会舘の長きに渡る歴史の中で「認知症初期集中支援推進事業」を受託していることは、淀川区の地域コミュニティ包括ケアにおいて法人が重要な役割を担っていることを意味しています。事業受託 5 年目である本年度は節目の年であり、あらためて襟元を正す気持ちで事業に取り組みたいと思っています。「お互いを支え合い、連携を図り、繋がりを深めます」という昨年度からのミード社会舘の目標を今年度もチームの中心において、淀川区の認知症の方とそのご家族が住み慣れた地域で安心して暮らしていくために、これからもチーム一丸となって支援を繋いでいきたいと思います。皆さまにも、しっかりと手を繋いで頂けますように。

異業種から福祉の世界へ、いらっしゃ～い！

今回は、福祉以外のお仕事から介護や保育の世界に入ってこられた方々の特集です。
最初は違う世界に戸惑いながらも、みなさんがそれぞれに活躍しています。

「私の密かな夢」

ミードデイサービスセンター　介護福祉士　　植田　克仁

私がミード社会舘で働き始めてから 5 年になります。介護の仕事に就く以前は、十三駅前の「つけ麺屋」で働いていました。もともと人と接することが好きで、これまでの仕事はほとんどが接客業です。しかし、7 年前に発生した駅前商店街の大火事で働いていた店が焼失してしまい、職を失った私は、その後派遣などで生計を立てていました。ちょうどその頃、妻が介護の仕事をしていたこともあり、妻の話を聞くうちに介護の仕事に興味を持つようになりました。そして、誰かの役に立てるならと、介護の道を歩む決心をしました。

これまでのモノを創り出して人に関わる仕事とは違い、直に人に手を触れて心に話しかける介護は、私にとってとても新鮮でした。しかし、利用者さんから必ず返答が返ってくるものではなく、むしろ目に見える反応が無かったり「見当違い」の連続で、経験が浅く知識のない自分は、「えらい仕事に就いてしもうた！」と後悔することもありました。トイレ、入浴、着替え、歯磨き、私なら当たり前にできることが、目の前におられる方々には「当たり前」に出来ないという現実に初めて直面し悩んでいました。そんな思いのまま、レクリエーション担当となったある日、「回想ゲーム」を皆さんとすることになり、その時の出来事が、介護に対しての私のいろいろな悩みを消してくれるキッカケになりました。レクリエーションの中で、「自分の生い立ち」「ご両親への感謝の思い」「若かった頃に恋人と破局した話」「子どもや孫への思いやりの気持ち」「今だからこそ行ってみたい国」など、かすれた言葉や身振り手振りで必死に思いを伝えてくださる姿に、この思いをしっかりと受け止めることが大切なんだと気付かされ、迷いが無くなりました。どんな介助のときでも声なき声を聴く姿勢を続けていく中で、たったひと言でもお互いに通じ合えたと感じる瞬間に、今では介護のやりがいをとても感じています。

今は新型コロナウイルス感染防止のためにコミュニケーションの方法が限られ、利用者さんにも様々な制限をお願いしなければならず、毎日ストレスが溜まっておられると思います。しかし、そんな中でも、明るく力強い笑顔を私に向けてくださる利用者さんに、今後どんなケアを見いだしていけるのか、、、私の理想像はまだまだ未完成です。「ミードに来たせいで、自分で出来ることが増えてしもうて、私困っとるねん！(笑)」という声を利用者さんから聞ける日が来ることが、今の私の密かな夢です。

（デイサービスでのひとコマ）

「保育人材の多様性」

ミード保育園　保育士　　菅　聡司

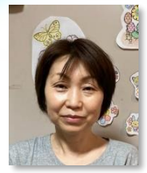
今年の 2 月から、ミード保育園で働かせていただいております。昨年までは、樹脂加工品を製造販売する会社で営業担当などの仕事をしていました。定年を前にして退職後の「第二の人生」について考えるようになり、雇用延長制度を利用するのではなく地域社会につながる生き方はできないものかと思い始めました。あれこれ思いをめぐらしているうちに、この世界の未来を担う子どもたちに関わる働きに携わりたいとの思いが強くなり、保育士を目指すことにしたのです。保育士試験の問題集を買ってきて解いてみようとしたところ、無縁の分野についての問いかけに全く歯が立たず、改めて通信教育で学ぶことにしました。本試験を経て何とか資格取得した後は、新しい生き方に向けてのスタートは急げとばかり少し早めに退職手続きをし、単身赴任先の東京から大阪に戻って働き先を探すことにしたのです。

実は採用面接でミード社会舘を訪れたときが、人生で初めて保育園に足を踏み入れた日でした。「実習・実務の経験

なし」で年は食っている、このような私を受け入れて下さったことに感謝しております。オムツ交換は？ミルクの飲ませ方は？食事の量は？どうしたら複数の子どもの様子が同時に把握できるの？トラブルを未然に防ぐ視点は？等々わからないことの連続に、我が子が幼かったころの記憶を辿りつつ、ベテラン保育士の先生方がしておられる様子を見たり手順を教わったりしながら、少しずつ子どもの成長サポートの仕方を覚えているところです。

（昼食を配膳している様子）

ところで、人間はおとなになるまでに長い時間がかかるため共同して保育するように進化してきたので、「みんなで協力して子育てする」ことが人間本来の育児の姿であるそうです（京都大学霊長類研究所　松沢哲郎元教授）。かつて会社勤めをしていた何の変哲もない男の私でも保育の仕事に関わっていることが証となって、子育てに協力してみようかと思う仲間が一人でも増えることで、保育人材の多様性が広がり、保育の質が向上する一助となれば幸いです。子どもたちの笑顔に励まされて元気を与えられ、子どもたちと共に感謝、思いやり、受容の心を日々育んでいきたいと願っております。



「10 年、ご利用者様に支えられて」

ミード愛ホーム　介護福祉士　　宇治　直美

私がキリスト教ミード社会舘を知ったのは、2011 年 4 月、介護の資格である「介護職員基礎研修」を受講してからです。それ以前は、水道関連メーカーの営業事務を通算 16 年、その後アロマセラピストとして 3 年半働いていました。しかし、接触性皮膚炎になったことでアロマセラピストの施術が出来なくなり退職することになりました。「さて、次はどうしようかな・・・」と考えたところ、高校時代の友人や叔母がヘルパーの仕事をしていたことや、父が入退院を繰り返していたことなどで介護や医療が身近にあったからでしょうか、とても自然に、ただ流れるように介護業界に入りました。そして、ミード社会舘で資格を取得してからすぐに、ミード愛ホームで非常勤として働くこととなりました。その後、2019 年末に最愛の父を看取り、今は母も何とか元気に一人で暮らしていることから、少し時間の余裕ができて「そろそろ自分モードに戻ろう」と思うようになり、2021 年 5 月からは常勤として頑張って働いています。

10 年前に私が勤め始めた頃は、職場には介護の専門学校を卒業された先輩が多く、現場経験の豊富なプロ集団の中で、毎日必死に働いていました。自分なりに気を利かせようと先回りして頑張っているつもりが、何もかもが中途半端になり、やりっぱなし状態でよく怒られました。「普通はこうする」「普通は・・・」とよく注意されましたが、その時の私は「普通って何？」と思っていました。介護業界での「普通」は、ほかの業界から初めて入ってきた私にとっては理解できないことばかりだったのです。私は、自分でご飯も食べられるし、服を着ることも出来る、ひとりで歩くこともできる。それまでの私は何もかも意識することなく当たり前にやってきていて、当たり前過ぎてまったくピンときていなかったのです。今まで「当たり前」にやってきた事のひとつひとつを振り返り、細かく分析、展開していくことが介護には必要であり、またその作業はとても面白く感じました。しかし、いざその展開通りに実際の移乗介助をやってみるとなかなか上手くいかず、泣きそうになったこともあります。そんな日々の中、いつも頑張って掃除をしている私の姿を見て、「あんたよう気張ってるなぁ」とご利用者様から褒めていただいたこともありました。

こうして 10 年仕事を続けてこられたのは、ご利用者様がいつも支えてくださっていたからだと思います。私が見守っているようで、実は見守られている、支えているようで支えられていると思います。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

（愛ホームでご利用者と一緒に）